

## 6 「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」の採択

「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」（平成20年度予算額86億円）は、文部科学省が大学設置基準等の改正等への積極的な対応を前提に、各大学・短期大学・高等専門学校から申請された教育の質の向上につながる教育取組の中から特に優れたものを選定し、広く社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行うことにより、我が国全体としての高等教育の質保証、国際競争力の強化に資することを目的としたものである。

看護学部において申請した「学年別OSCEの到達度評価と教育法の検討」は、採択率が全体で15.76%という中で採択され、平成22年度までの3年間について、大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）により経費措置を受けることとなった。平成20年度は、19,872千円の補助金交付を受けた。

取り組みの概要については、以下のとおりである。

### 【概要】

看護学基礎教育において、看護実践能力の育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標や看護技術項目の卒業時到達度が、国などの関係機関から次々と提示されている。これは、卒業時の能力と医療現場や社会が求める看護師の能力に、ギャップを生じていることが大きな要因である。現在の看護学基礎教育は、認知領域（知識）、精神運動領域（技能）と情意領域（権利擁護、態度、倫理観など）を統合した教授法によって実施されている。しかし、その評価は個々の専門領域単位で行われているため、学生個々の看護実践能力を形成的に、あるいは卒業時の到達度を客観的に評価している看護系大学は極めて少ない。

本学は、平成18年度に開学し、専門領域の科目は、概論（講義）、援助論と技術論（演習）、臨地実習という講義→演習→実習の流れを基本軸としたカリキュラム構築を特徴としている。加えて市民（模擬患者）の参加による演習を全学年に導入し、早期から対人関係能力の育成を重視した教育を行ってきた。専門領域ごとに修得した看護技術の有機的統合を図るために、近年、医療系教育で臨床技能を適正に評価するための方法として有効とされている客観的臨床技能試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）を用いた到達度評価の導入に着手したところである。看護実践能力を評価する試験としてOSCEを導入している看護系大学は少なく、試験の妥当性や評価の客観性については十分議論がなされていない。

そこで本取組では4年間で修得する看護技術内容、到達度及び評価基準を明確にし、認知・精神運動・情意領域を含んだ到達度評価として、OSCEを用いて学年ごとに評価する。その結果をもとに教授法やシラバスを見直し、必要なFD研修を企画しながら教育実践を蓄積し、看護教員の教育力を向上させていく。このように全教員参画型で行われる本取組は、客観的成績評価を目的としたOSCEを志向するだけでなく、看護実践能力を育成することに主眼をおいた「育てるOSCE」への挑戦である。

学年別到達目標を提示し、全学年にOSCEを導入することによって、学生の主体的な学修意欲を育み看護実践能力を向上させるとともに、教員は自分の専門領域以外のOSCE課題に参画することによって、教員の実践力が向上し、互いの教育内容が有機的に連携する効果をねらう。また、学生は卒業時までには修得した看護実践能力が明確に示されるため、将来、実践の場でどのようなキャリアを積み上げていくのがより具体的になり、効果的な自己研鑽のもとキャリアアップが可能となる。

